

令和 6 年度 第 3 回
江東区地域福祉計画推進会議
会議録

令和 7 年 1 月 1 0 日

1 開会

○大町福祉課長 本日はお忙しくお寒い中、当会議にご出席下さりありがとうございます。事務局を務めます、江東区福祉部福祉課長の大町です。よろしくお願いいたします。この会議は公開が原則となっており、録音及び記録のための写真撮影をさせていただきますのでご了承願います。本日、1名の委員にズームで参加をいただいております。本日の会議では傍聴席を設けておりますが、現時点で傍聴希望の方はいらっしゃいません。

続いて、本日の会議の運営について、ズームで参加の委員にお願いでございます。通常マイクはオフにし、発言の際には手あげサインをクリックし、指名されましたらマイクをオンにして発言をゆっくりはっきりとお願いいたします。

それでははじめに、資料の確認をいたします。まず資料1として「第二期地域福祉計画策定に係る調査結果（速報版）について」。その後ろに別紙1・別紙2・別紙3と続きます。これらの資料に不足等ありましたら挙手願います。

次に、議事の終了後休憩をはさみ、前回の会議でご提案のあったグループワークを行います。そのため本日は変則的に皆様にはあらかじめ各グループに分かれて着席いただいております。グループワークを含めた本日の全体の進行表を机上に配付していますのでご覧ください。時間の目安としては、13:30にスタートしていますが14:10頃までに質疑応答を含めた議事を終了し、5分間の休憩を取った後、14:15頃からグループワークを開始したいと考えています。閉会は15:30を予定していますが、進捗等により少々延長したりする場合がありますのでご承知おきください。それではこれ以降の進行は長倉会長にお願いしたいと思います。会長よろしくお願いいたします。

○長倉会長 それでは議題1、「第二期地域福祉計画策定に係る調査結果（速報版）について」、事務局より説明をお願いいたします。

2 議事

(1) 第二期地域福祉計画策定に係る調査結果（速報版）について

○大町福祉課長 それでは資料1により説明をまいります。令和7年度に予定している第二期地域福祉計画の策定に向け、前回の会議で皆様にご確認いただいたアンケート等を10月から11月にかけて実施しました。まだ分析の途中ですが、本日はその結果を速報版としてご報告いたします。

「1 区民アンケート」は、18歳以上の区民3,000人を無作為抽出し、主に選択式で調査しました。ウェブでの回答も可能としたところ、回答率は39.3%にとどまり、統計上の信頼度には支障はありませんが、前回令和3年度の調査の回答率54.4%からは約15ポイント程度低下しています。

「2 団体アンケート」は、地域福祉分野において区内で活動する団体等69団体を対象に、主に自由記述式で回答いただきました。回答率は58%となっています。

1、2のアンケートとは別に「3 意見募集」として、区報や区のホームページ・SNSへの掲載により広く意見を募集し、区の福祉課題や充実を希望する施策について66件の意見が寄せられています。

これらのアンケートや意見募集の結果が別紙1・別紙2・別紙3ですが、それぞれかなりボリュームが大きくなっているため、資料1の2ページ以降に区民アンケートの調査結果のうち主なものを抜粋しました。その内容を私から説明した後、本計画策定の支援業務の委託業者であるジャパン総研から、計画策定に向けたヒントとなりそうな分析結果についていくつか解説いたします。

資料1の2ページをご覧ください。「4 区民アンケートの調査結果」の（問9）は、近所や地域との関わりの必要性を尋ねています。前回の令和3年にも同じ内容で調査を行っているため比較が可能となっています。今回、近所や地域との関わりが必要と思っている方の割合は78.7%で、前回調査の87.8%から9.1ポイント低下しています。コロナ禍等を経て、地域のつながりの希薄化が江東区においても進んでいるということが表れる結果となっています。

（問17）は、住民同士の助けあいを広げるための区が取り組むべきことを尋ねています。「わかりやすい福祉情報・地域活動情報の提供」が45.9%と最も高く、次いで「誰でも気軽に集える、住民やNPO等が中心となる『地域の居場所』づくり」が33.2%となっており、前回調査と順番は変わっていません。SNSの活用等、区の広報媒体は充実してきていますが、区民にとってわかりやすい情報の提供についてはさらに取り組む余地があると感じました。

3ページをご覧ください。（問18）は、地域貢献の意欲について「思っている」「あまり考えていない」のシンプルな二択であり、国の社会意識に関する世論調査に準拠して設定した設問です。結果は、「思っている」が「あまり考えていない」より少なくなっており、国の調査の東京都の区部の数値よりかなり低くなっています。

（問23）は、第二期計画には孤独・孤立対策も盛り込む方向としていることから新たに設けた設問です。国の「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査」に準拠した内容です。「孤独感がない・比較的低い割合」は72.2%と、国の調査より12.9ポイント高く、数字上では孤独感を感じている人の割合が全国平均よりは少ないという結果になりました。

4ページをご覧ください。（問31）は、区役所等の相談窓口に対する要望で、前回調査と同じ設問ですが、中でも「専門性の高い相談ができる」が6.0ポイントと大きく上昇しています。今後、重層的支援体制整備事業の実施体制等を検討するに当たってもこうした結果を参考にしていきたいと考えております。

続いて、ジャパン総研から区民アンケートの調査結果分析について詳しく解説いたします。別紙1の「地域福祉に関する区民アンケート調査報告書」の60ページ以降の「調査結果分析」をご覧ください。それでは、ジャパン総研さんお願いいたします。

○ジャパン総研 ただいまご紹介にあずかりましたジャパン総研の地引と申します。よろしくお願いいたします。

全体の結果を踏まえ、統計データからは把握しづらいけれども今後の地域福祉を進めるに当たって重要だと考えるポイントを、4つのテーマに基づき分析を行いました。

60ページの「分析1 近所の『顔も知らない人が多い』人について」のテーマは、地域意識の薄い人たちとつながるということです。（問8）の近所との付き合い方で「顔も知らない人が多い」の割合が24.7%で、およそ4人に1人が近所の方の顔も知らないと答えています。属性としては、20代後半あるいは学生、江東区の居住歴が浅く、賃貸住宅や社宅に住む方が多くなっています。

61ページの上段をご覧ください。「顔も知らない人が多い」は、近所づきあいをしている方に比べ、近所や地域と関わる必要性を感じていません。近所で困っている人を助けたいとか地域とつながる必要があるという意識が希薄です。

61ページ下段をご覧ください。「顔も知らない人が多い」と回答した方の中にも地域への貢献を行いたいと思っている方が1割程度います。現在は地域意識の薄い方でも、きっかけがあれば地域に関わる可能性があると考えられます。

地域意識の薄い人たちとつながりをつくるために、ここに挙げた参加したい地域活動や参加条件を踏まえ、自治会や地域活動団体等ができることを実行していくことが必要です。また区としては、こうした情報や取組の先進事例を自治会や地域活動団体等に提供し、大学や会社等と地域をつなげる接点をつくり、それぞれの主体が工夫と協力をしていくことが必要であると考えられ

ます。

62 ページをご覧ください。「分析 2 地域貢献の意欲と地域活動について」のテーマは、地域活動の担い手を増やすことについて着目しました。地域貢献の意欲（問 18）の全体結果としては、「思っている」が 40% 台、「あまり考えていない」が 50% 台で、「あまり考えていない」が「思っている」を 17 ポイント上回っています。しかし、その差が比較的小さいかもしくは同程度の属性である方は、地域活動の担い手として期待できる存在と考えられます。その属性としては、60 歳以上で、居住歴が長く、会社等の役員か自営業主であるという結果です。

63 ページをご覧ください。地域貢献の意欲がある（思っている）人の地域に関する意識ですが、一番上の表からは、親密な近所づきあいをしている傾向が見られます。真ん中の表では、「登下校時の見守りや地域のパトロール」「自分の時間、経験、知識、体力を生かせること」をしたいこととして挙げています。下の表では、「町会・自治会の加入促進」「住民同士、住民と行政が地域福祉について話しあう機会の確保」を住民同士の助け合いを広げる区の取組として挙げています。この結果から、地域活動の担い手を増やす 1 つの方法として、地域ごとに異なる活動テーマを見つけ、そこにいる人たちが何をしていきたいか、地域として何ができるかを調べたり話し合ったりすることが有効ではないかと考えられます。

64 ページをご覧ください。地域貢献の意欲がある（思っている）人の地域活動に対する意向ですが、一番上の表から、参加したい地域活動としては「自分たちが主体となって行う地域活動（交流づくり、居場所づくりなど）」を挙げています。真ん中の表では、地域活動の参加条件として「身近な場所で活動できること」を挙げています。下の表では、区の福祉情報の入手先として「区が行う出前講座」「民生委員・児童委員」「町会・自治会の回覧板」が高くなっています。この結果から、地域活動の担い手を増やすためには「自分たちが主体」「身近な活動」がキーワードとなります。区の出前講座を活用し、民生委員・児童委員とも協力し、気運を高め活動の場づくりを進めていくことで、活動と担い手の両方の拡大につながり、生き生きとした地域になっていくのではないかと考察されます。

65 ページをご覧ください。「分析 3 孤独を感じる人について」のテーマは、孤独を感じる人へのアウトリーチについてです。自分が孤独と感じるかについては、「しばしばある・常にある（週 1 回以上）」と回答した割合は 4.7% で、国が 4.8% ですので同程度です。およそ 20 人に 1 人が孤独と感じているという結果です。孤独を感じる人の属性は、性別は「その他」、10 代から 20 代前半、居住歴が 3 年から 5 年、給与住宅・寮・寄宿舎に住んでいる方、収入をともなう仕事をしておらず仕事を探している方の割合が、孤独を感じていないと回答した方よりも高い傾向です。

66 ページをご覧ください。孤独と感じる方にも地域活動への参加意向はみられます。地域活動の参加条件は、「子どもの世話や親の介護を代わってもらうこと」「参加に報酬があること」等です。地域の居場所の希望としては、「その他」が多かったです。

67 ページをご覧ください。孤独とを感じる人が頼る先は、「民生委員・児童委員」「相談支援専門員」等が高くなっています。一方で、「相談できる人や機関はない」「相談先がわからない困りごとがある」等の回答も高くなっています。また、孤独とを感じる人の相談窓口への要望は「その他」「身近に相談場所がほしい」等が高くなっています。この結果から、孤独を感じる人に早期にアプローチするためには、例えば若い世代の方が多かったため、会社や大学との連携も考えられます。また、要介護や障害者のご本人、またその家族、子育て家庭も可能性があるため、保健部署、民生委員・児童委員、医療機関、サービス事業者、社会福祉法人等の、一層の連携も重要であると考えます。また、経済の面も大きな要素であるため、ハローワークとの連携や地域活動に報酬を付けることを検討してもいいかと考えます。

68 ページをご覧ください。「分析 4 相談先がわからない困りごとが『ある』人について」のテーマは、相談先がわからない困りごとがある人へのアウトリーチについてです。相談先がわから

ない困りごとが「ある」と回答した方が10%台で、おおよそ10人に1人です。さまざまな属性に一定程度いることが見受けられます。下の表では、相談先がわからない困りごとがある人は、近所付きあいが浅い人だけではなく、「家族ぐるみの付き合いが多い」人の中にもそういった状況の方はいます。つまり、どのような属性の方でも誰でもそういう状況になる可能性があると言えます。

69ページをご覧ください。上の表からは、相談先がわからない困りごとがある人と、孤独と感じる状況は深く関係していることが見受けられます。下の表からは、相談先がわからない困りごとがある人の相談窓口への要望は、「身近に相談場所がほしい」「相談の際、こどもや要介護者の面倒をみてる」の割合が高く、区の福祉情報の入手先としては、「区が行う出前講座」「社会福祉協議会」等が挙げられています。この結果から、相談先がわからない困りごとがある人へのアプローチは簡単ではないということが改めてうかがえる結果でした。誰でもそういう状況になるため、日頃から情報を発信し、公報等で何かあった時にはまずここに相談に来てほしいということや相談しやすい環境が区の中にあるということを周知していくことが大事なのではないかと考えます。

以上が報告です。この結果を踏まえ、皆様がそれぞれの立場や経験から区民につながる取組をご提案いただけることをお願いして、説明を終わります。

○大町福祉課長 区民アンケートの速報版については以上ですが、団体アンケートや意見募集については自由記述方式であったため、本格的な分析や課題整理は現在進めているところです。チャットGPTを使った簡易的な分析を行いました。分野ごとの頻出ワードとしては、地域活動では「町会や民生委員の後継者不足」「行政と地域との連携強化」、高齢者支援では「包括ケアシステムの強化」「孤立対策」、障害者支援では「支援人材の育成」「社会参加のための環境整備」、こども子育て支援では「地域連携」「多様な支援プログラムの提供」、災害時の福祉対策では「避難所運営体制の強化」「地域住民への防災教育」、情報共有とデジタル活用では「情報発信の強化」「デジタルデバイドの解消」等が抽出されています。

今後はこれらの調査結果について分析をさらに進め、本年度末には完成版の報告書として公表していくとともに、調査で明らかになった課題等も踏まえ、計画の骨子案を作成していきたいと考えています。本日出席されている皆様から分析の切り口等に関してのご意見もいただきたいと思っています。

○長倉会長 ありがとうございます。それでは質疑に入りますが、ご意見やご質問等はございますか。

○秋山委員 秋山です。区民アンケートは今回ウェブ回答も取り入れたにもかかわらず回答率がこれだけ低いということに対して、事務局の見解をお聞かせください。

○大町福祉課長 回答率は前回よりかなり低下しているところです。区ではさまざまな計画策定の際に区民アンケートを行っていますが、ここ1年余りのアンケートの回答率を見ますと、だいたい今回と同様の40%くらいの水準になっており、地域福祉計画にかかわらず全体的に回答率は低下しています。ウェブ回答を取り入れたということで今回はウェブで回答された方もいらっしゃいますが、これくらいの回答率が最近の区の調査としては平均的な数値ということで承知しています。

○長倉会長 郵送とウェブの内訳はどうだったのですか。ウェブを使ったことによる効果が見た

いのですが。

○ジャパン総研 おおよそ郵送での回答が 770 件程度で、ウェブでの回答は 400 件程度となっていますので、今回は郵送の方が多くの回答をいただいています。

○長倉会長 しかし、ウェブでの回答を設けなければもっと回答率は下ったわけですから、やった効果は一定程度あったと捉えていいかと思います。

○大町福祉課長 意見募集についてもウェブ回答でしたが、短い期間に 66 件という多くの意見を頂戴しており、ウェブのため回答しやすかったのではないかと考えています。

○森委員 東京都社会福祉協議会の森です。他の地域で同様のアンケートをやっていることも思い浮かべながらの質問ですが、62 ページの地域活動に対して役立ちたいと思っているというところの分析で、60 代以上が多くなっていますが、若年層の 30 代も 3 割は役立ちたいと思っているという状況があります。相対的には低いことにはなりますが、この 3 割の人たちがどういう想いで江東区の中で活動したいと思っているかに目を向ける必要があると思います。コロナ後、若年層が身近な地域に関心を持つようになったという調査もあったので、以前の調査に比べ若年層がどのような関心を持っているかに注目することも必要ではないでしょうか。

活動に参加する条件としては、64 ページの真ん中の表から、時間に余裕があることが重視されており、地域活動は時間がないとできないというイメージがあるようです。今後、働く高齢者が増えてくると、時間がなくてもできるような、例えば週 1 回の地域活動等を増やしていくことも必要ではないかと感じました。

○長倉会長 時間がないと回答した方たちは、拘束される時間が長いということに抵抗があるのではないのでしょうか。デンマークに行った時、配食サービスをしている方たちが、お昼休みに来て配食だけしてまた職場に帰っていくのを見ました。そういった、「ちょいボラ」のような気軽にできるような環境づくりも必要で、そういうことに対するハードルが下がれば、もう少し 30 代の少し興味を持っている方たちを救い上げることができるのではないかと思います。

○大町福祉課長 30 代の中で地域に役立ちたいと思っている方が、地域貢献に参加する条件としてどういったものを求めているのかという切り口でも分析は可能です。63・64 ページは全体の年齢層の結果になっていますが、30 代について取り出し、どういう想いで回答したのかを詳しく見ていくことはできるため、ジャパン総研の方とも確認しながら取り組んでみたいと思います。

○岡田副会長 今回は速報値ということで、これから分析してまた議論があるという前提でのコメントです。別紙 1 の区民アンケートは回答率が下がったということですが、別紙 3 の意見募集は 66 件も集まっているということは、他の計画に比べてもとても多く、その点では、一期計画の策定から住民参加を大事にしてきた成果が表れているとも見られるのではないかと思います。別紙 3 の意見は自発的に届けてくださった声ですから、切実な内容のものもあり、真剣に向き合うべきニーズが含まれています。先ほど、これらの自由意見も含めて地域福祉計画で必要な仕組みをつくるとの説明がありましたが、各個別計画についても、障害・高齢・こども等のいろいろな部署につなげていくものを抽出し届けていく必要があると思います。自由意見の分析をしっかり行っていただきたいです。

別紙 2 の説明は今日はありませんでしたが、自分たちの団体はとても頑張っており課題が見当

たらないという声もいくつかありました。コロナ禍をはさんでも地道な活動をやってきた成果だと思いますし、とても頭が下がりますが、私が活動している地域でも、中心メンバーが倒れて団体が立ち行かなくなったケースを目にしており、5年後10年後はどうかという内発的な変化を支えていくような仕組みも必要ではないかと考えました。

○大町福祉課長 意見募集は確かに予想よりかなり多くの件数をいただき、切実な内容や想いが出ていますが、それぞれの分野にまたがっており、地域福祉計画は上位計画であるため、このような意見もできる限り一つ一つ見ながら、個別計画にも影響を与えていける計画の改定になるように取り組んでいきたいと思っています。

○基委員 66ページの、孤独と覚るこゝが「しばしばある・常にある（週1回以上）」と回答した人の地域活動への参加条件として、「子どもの世話や親の介護を代わってもらえる」なら参加してもいいという方が10%台おり、「参加に報酬がある」なら参加してもいい方が9%台とかなり高い数値です。これらの意味が理解できません。もう少し具体的な詳しい分析はありませんか。

○ジャパン総研 孤独を覚ている方が地域活動に参加したい条件としてこの2つを挙げた割合が特に高かったのですが、もう少し詳しく分析してみないと必ずしもそうだとは言えませんが、介護や子育てにより外とのつながりがなく孤独を覚ている方や、仕事をしていないことで外とのつながりを持っていない方がおり、そういった方は地域活動に参加するに当たってはこういったところを支援してもらえれば外に出ていけるのではないかとこの想いがあり、このように回答されたのではないかと推察されます。こういった方々がどういふ属性を持っているか、もう少し分析していききたいと思っています。

○長倉会長 なかなか不思議な数字が出てきたと思いますが、やはり孤独を覚ている人たちが、実はこどもの世話や介護に困っており、孤独な状況におかれているのかもしれない。参加条件として報酬があることと答えた方たちは、もしかしたら働いていないためお金に困っているのかもしれない。ボランティアや地域貢献等は自分自身に精神的にも金銭的にも余裕がないとできません。さらに分析していただきたいと思っています。

67ページの「頼れる人・機関」として、孤独と覚ることが「しばしばある・常にある」といふ方たちの回答で「民生委員・児童委員」が高く出ています。民生委員・児童委員の存在を学生たちは知らないことが多く、自分のことは自分ででき困っていないのでしょうか。しかし困っている人たちはその存在を知っているにもかかわらず、なぜそこにリーチできないのでしょうか。別紙2の団体アンケートの5ページで、No2に「現在当地区においては定員42名中10名の欠損が生じている」とありますが、区民アンケートで孤独を覚ている人たちの認知度が高いにもかかわらず欠損を生じている地域があるということが問題として見えてきています。アンケートを実施することにより、このいふ問題があることが出てきたと覚えました。このように突き合わせていくと、まだまだいろいろな課題が出てくるのではないかと覚えました。

○大町福祉課長 先ほど、年齢ごとの分析まではいっていないとお答えしましたが、おそらく民生委員・児童委員に関しては高齢者の方たちの認知度はかなり高いのではないかと覚えます。高齢者の一人暮らし世帯の方に対しては、民生委員・児童委員の方々に訪問調査をお願いしており、区報によるPRも進めています。若い方で「民生委員・児童委員」と回答している方はかなり低いかもしれません。地域活動において、若い世帯が多い臨海部は民生委員・児童委員の欠員が多く認知度も低くなっており、このいふところにも結果が表れてきているのではないかと覚えます。

○長倉会長 臨海部では、地域活動への参加意欲についても低めではないかと感じました。突き合わせてみるともっといろいろ出てくるかもしれません。

○大町福祉課長 グループワークの時間もありますので、意見シートにより切り口等を提案していただきたいと思います。

○長倉会長 それでは、速報についての説明及び意見をいただきましたので、それらを踏まえながらグループワークに入っていきたいと思います。5 分の休憩をはさんだ後にグループワークを行います。

(5 分休憩)

○大町福祉課長 それではグループワークを始めます。「グループワーク」と書かれている資料をご覧ください。今回、「江東区の『地域のつながり』『地域と行政のつながり』づくりにおける課題と今後の取組み」について皆様には討議を行っていただきます。そのねらいは、現行の地域福祉計画では包括的な支援体制を構築するための 3 つのつながりをつくることとしていますが、そのうちの「地域のつながり」と「地域と行政のつながり」における江東区の現在の課題を挙げていただくとともに、それらの課題を解決するための必要な取組についても合わせて意見交換していただくことで、これから取り組む第二期計画の策定に生かしていきたいと思います。皆様の日頃の活動や経験、及び区民アンケート等の結果も踏まえ、活発な意見交換の場としていただきたいと思います。

資料の裏面が流れとなっています。はじめに、グループ内で簡単な自己紹介をお願いします。司会と発表者をあらかじめ決めさせていただきましたのでご確認ください。続いて、15 分程度「個人検討」をしていただきます。区の現在の課題を桃色の付箋に、課題を解決するのに必要だと思う取組を桃色以外の付箋に書いてください。その後 30 分程度グループで討議を行っていただきます。各自課題と取組を発表し、「地域のつながり」と「地域と行政のつながり」のどちらに区分されるのかを確認しながら付箋をホワイトボード上に貼ってください。また、類似した課題や取組を集約したり、課題と取組をつないだり、意見交換を随時行ってください。その中で出た新たな課題や取組も書き貼ってかまいません。その後 5 分程度でまとめ、発表内容をグループ全員で確認し、最後に各グループから 5 分程度で発表していただきます。各グループの進行は司会の方々にお願いしていますが、全体の時間の管理は事務局で行い随時お声掛けするほか、各グループに事務局職員を配置しますので、質問やお手伝いすることがあればお申し付けください。

【グループワークの発表】

1 班

・地域のつながりについて

世代間のギャップをどう埋めていくかが大事です。地域のつながりを求めている若年層に対して大切なのはコミュニケーションを取ることであり、老若男女全てが集えるような形を考えていく必要があります。

・担い手について

それぞれの人が自分が活躍できることを見つけ、それを目指して社会参加していくという形で、みんなが活躍できる社会をつくっていくと考えていけば、ボランティアだから担い手だからと重く考えなくてもいいのではないのでしょうか。そのような世界がいいと思います。

- ・居場所について

千葉県では先進的な取組をいろいろ行い、例えば、「やすらぎの森 前原」の利用者はセブンイレブンとコラボして店で働いたりしているそうです。障害者や高齢者の雇用問題や社会参加をどうしていくかということは、社会資源をどう生かし、参加しやすい社会をどうつくり上げていくかということであると思います。行政だけではなくいろいろなサービスやさまざまな形の資源をどう融合させていくかにより、よりよい社会になっていくのではないのでしょうか。

2 班

- ・地域のつながりについて

町会役員の高齢化等問題はたくさんあり、活動したいがやり方がわからない等いろいろあるとは思いますが、こどもたちに小さい時から活動に参加させたり、学校で地域のことを勉強させたりしたほうがいいと思います。

- ・個人情報の扱いについて

ネットワークが足りないとか、個人情報の扱いのため情報が共有できないといった問題があります。

- ・行政に期待することについて

地域活動はボランティアであるというイメージをやめたほうがいいと思います。

相談機関の認知度アップが必要です。

行政の在り方としては、官僚制や組織の問題があり、制度による制約を受け過ぎており、会議が乱立し多過ぎます。

掲示板は、町会で設置するとお金がかかるため、行政で設置し、区民に対する認知度も上げてほしいです。

- ・その他

障害を持つ方の参加できる活動、こどもを見守り助け合う地域づくり、行政の会議及び会議体の乱立、ボランティア等自治体の担い手断絶、管理社会や官僚制の弊害。

3 班

- ・地域のつながりについて

孤独を感じる人の増加やマンション等の隣人を知らないという課題がありました。

地域とのつながりを持ち個々の活動ができる居場所をたくさんつくるのが大事であるということで、空き家の活用やカフェの利用、及び自治会や理事会等で近所の方を知る取組をすることが挙げられました。ただ、つながりたくない方もいるため、なるべく窓口を増やし、参加したいと思う可能性を高める必要があるとの意見がありました。

地域活動の担い手が不足し、民生委員・児童委員のなり手が少なくなっています。

若い世代へのPRが必要であり、民生委員・児童委員は働いているとできないと思っている方もいるようでした。活動に報酬を設けるとか、活動の事例集を作成してPRしたらいいのではないのでしょうか。

- ・地域と行政のつながりについて

困りごとの相談先がわからなかったり、たらい回しにされてしまったりする課題がありました。

相談先を明確にし、一括した相談窓口をつくるのがいいのではないのでしょうか。

福祉相談においては専門の設置が大事です。

地域福祉について理解がなく、自らアクセスしないとつながれないという課題がありました。

年少期からのボランティア精神等の教育が必要なのではないでしょうか。

「地域福祉」は言葉が固いため、もう少しわかりやすい言葉にしてはどうでしょう。

個人情報取り扱いが厳しくなっているため、行政と連携しながらやっていくことが大事です。

(5分休憩)

【会長からの講評】

皆さんお疲れ様でした。結構きちんとまとまっていてよかったと思いました。グループワークは、少人数でそれぞれの背景や経験等を使い課題を解決するために行われます。社会福祉ではよく使われる手法で、学生にも課題やケースを与え、アセスメントをし、どういう課題がありどのように解決するかをみんなで話し合っていく形を取ります。専門職でも用い、ケースワークを行う時にも、医療や保健福祉等さまざまな専門職が集まり、それぞれの立場や経験からいろいろな問題を分析して解決策を見つけていきます。私たちは生活者であり専門性を持つ者としてここに集まっていますが、今日は「地域のつながり」「地域と行政のつながり」という2つのテーマの中で、どういうことが課題として挙げられ、それに対してどういう解決策があるかということ話し合い、共通するところをまとめていきました。グループワークをやることにしたのは、普通に会議の形式で皆さんがそれぞれ意見を言い、事務局がまとめ、アンケート結果とともに報告書に落とし込むというやり方だけではなく、より深い話をしていけるようにと考えたからです。私もグループワークに参加してみて、いつものように会長としていろいろな意見をお聞きするだけでなく、もっと身近な皆さんの活動の中で得た知識やどんなことが困難なのかがとてもよくわかりました。それが今まとまった形なので、これをベースに、アンケートも加味して、機会があれば区民の方にもグループワークに参加していただき、どのような解決策があるかを話し合えればいいと思います。それにより、日頃江東区で生活している方たちが何に困っていてどうしてほしいのかということが出てくると思います。ただ、ほしいと言われたサービスをそのまま提供することが解決策ではなく、専門職の方の判断が入っていかなければなりません。判断をすることが私たちに与えられた使命だと思います。今日このようなベーシックなグループワークを行ったことに加え、これからは、皆さんが日頃地域で活動されている上で培った専門的な視点や、事務局の方が日頃業務を行っている中でお持ちの視点も分析に入れながら、二期の計画を立てていくということです。今日やったことが最後まで活用できると思いますので、日頃の活動の中で思い出し、最終的に報告書の中にどう盛り込んでいくのかをまた皆さんと考えていきたいと思います。グループワークでは、日頃の活動からいろいろな意見が出てきて、少し面白かったのではないのでしょうか。こういうことを楽しいと思ってくれる人が増えれば変わっていくと思います。こういったことも一つの手法としてありますので、日頃の活動の中でも活用してみたいと思います。今日やったことは最後まで二期の計画の中に活用していきたいと思います。

○大町福祉課長 会長ありがとうございました。最後に事務局から事務連絡が3点ございます。

1 点目は謝礼金の請求書についてですが、まだ提出されていない方はお帰りの際に事務局職員にお渡しください。

2 点目は意見シートについてですが、今日の内容についてご意見等がある場合、1月22日(水)までに事務局にご提出ください。メールでの提出も可能です。12月26日付でEXCEL形式のデータを送付しておりますので、そちらをご利用ください。

3 点目は次回の会議についてですが、3月27日(木)で調整をしています。詳細が決まりましたら改めてご連絡を差し上げます。

○長倉会長 皆さん大変長い時間ありがとうございました。また普段の活動に戻っていかれるわけですが、今日の知見を活かして頑張ってください、次回会議には新たな情報や意見をいただきたいと思います。

○委員一同 ありがとうございました。

—了—